

平成30年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全校生徒の学力向上 2. 授業改革と教員の授業力向上 3. インターンシップの促進 4. 姉妹校への入学者増 5. 社会性の育成 6. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止 7. 校内環境の整備 8. いじめ防止 9. 教員の生徒募集に関する意識の向上 10. 地域との連携・交流の推進 11. 生徒・保護者との信頼関係構築 			
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
教務	・学力向上	基礎学力指導の実施	A	基礎学力向上へ向けて、基礎学力小テストの実施や実力試験(基礎力診断テスト)の事後補習の実施などができた。また学年末に漢字・英単語コンクールを実施できた。 教職員の研修として、毎学期に授業力向上勉強会を実施し、教科ごとの情報共有や指導技術の向上や指導内容の最新化などの取り組みができた。来年度は教職員研修会として、さらに充実した内容を目指す。 保護者対象公開授業は今年度から年2回実施とした。来年度も5月と11月の2回実施し、保護者に授業を参観して頂く機会を増やし、生徒・保護者・教員が連携してより良い授業・教育環境の改善を目指す。 授業アンケートの実施、教務内規の検討、手引等文書の充実については、今年度は詳細についての取り組みができなかった。来年度はICT機器を活用して、利便性や即時性のある授業アンケートを実施する。
		実力試験の有効活用	A	
		学習習慣の定着	B	
	・授業改善の取り組み	研究授業・授業アンケートの実施	B	
		保護者対象公開授業の実施	A	
		校内研修の実施	A	
		教科会の活性化	B	
	・業務の効率化	教務内規等の検討・策定	C	
		手引等文書類の充実	C	
情報管理	・学内コンピュータネットワークの運営・保守・管理を行う	ネットワークの保守・管理	A	ネットワーク・サーバー類については大きな問題も無く、保守・管理が上手くいっていた。情報機器に関しては想定外の猛暑によりタブレットが膨張してしまった。業者側が管理の説明が不十分だったことがあり、業者側の負担で全台入れ替えとなった。入れ替えの時期が行事と重なっていたが迅速な対応により行事に支障はなかった。新規システムとしては情報教室の入れ替えを実施した。
		サーバー類の保守・管理	A	
	・情報機器の活用のためのガイドライン・マニュアルの整備を行う	情報機器の保守・管理	B	
		各種ガイドライン・マニュアルの作成、整備	A	
		一斉配信メールの活用	A	
	・既存のシステムの活用および更新の検討を行う	ホームページの活用	A	
		新規システムの検討・更新	A	
総務	・安心安全で豊かな学校教育環境の整備	設備・施設の管理・営繕	B	特別教室の使用法や鍵の取り扱い等についての意識の統一が不十分であると感じている。防犯の観点からもより慎重な利用の啓発が必要である。 美化用品、各種備品、消耗品などは機能・価格の両面から見直しを実施しており、経費節減にもつながっていると思われる。清掃に対する生徒の姿勢もかなり良くなってはいるものの、部分的に清掃が行き届かない箇所もあり、強化策の実施も検討している。 エアコンの使用に関しては、環境に対する生徒への教育活動とともに、健康への影響も考えた適切な利用法を伝えていかねばならない。 コースの増加につれて、行事も年々膨らみ複雑化しているが、見直せる部分もあると考えられる。円滑に運営し、行事の内容を充実させていくために、他の分掌や各学年との調整をはかりながら、各行事を計画・実施していくよう努めた。 避難訓練については新たな取り組みも行っているが、より良い避難経路を確保し、迅速かつ安全な避難を目指していく。
		環境美化の徹底	B	
	・経費節減の啓発および具体的な実施	適切な備品・消耗品の調達	A	
		経費節減(省エネ・節約)	A	
		式典(入学式・卒業式など)の計画・実施	A	
	・災害対策の推進	次年度行事予定の見直し・調整	B	
		避難訓練の計画・実施	A	
		耐震・改修の促進	B	
進路指導	・進学への意識付け ・進路未定者の減少 ・姉妹校への入学者増 ・正社員雇用内定率の向上	各学年に適した進路ガイダンスの実施	B	今年度はインターンシップの実施回数を増やし、参加する生徒が大幅に増え、また、2年生対象に職業講話を実施し職業観を高めることができた。生徒一人一人の進路希望の実現に向け、面談回数を多く実施した。3年生の受験前には多くの先生方の協力により、面接指導を実施することができ、進学・就職に良い結果が得られた。姉妹校へは名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院をはじめ、昨年度より入学者が増加した。1年生から大幅に変わる大学入試改革にあわせ、生徒が振り返りを含めた記録を蓄積することができた。 来年度以降も大学入試改革に向けた正しい情報を収集し、生徒の進路実現に向けた進路指導を実施したい。
		『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用	A	
		保護者対象進路説明会や保護者会などで家庭への進路情報の提供および姉妹校入学の特典の周知	A	
		職業観を高めるためのインターンシップの実施	A	
		進路を考える材料としての適性診断の複数回実施	B	
		変化する進路情報の提供	A	
		各学年一人当たりの担任による複数回の個人面談の実施	A	

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> 行事の円滑な運用および主体的参加者の増加 生徒会活動と各委員会の活性化 部活の活性化 ボランティア活動の推進 	生徒が主役になれる学校を目指し、各行事の計画的運用を図る	A	<p>生徒会に立候補し役員を担当する生徒は、昨年に引き続き実に真面目に意欲的に生徒会活動に取り組むようになってきた。反面、まだまだ受け身の生徒も多く、生徒主体の行事の活性化には長い道のりを感じた。しかし、文化祭においては、チケットから現金化の試みに成功し、次段階への可能性を見出すことができた。研修生も少しずつではあるが増えてきているため、次年度は生徒会活動に関わる生徒の育成に更に力を入れて、行事の活性化に繋げていきたい。</p>
		各行事で活躍する委員会の拡大と学校行事への定着を図り、より多くの生徒が学校行事に積極的に参加することを旨とする	B	
		生徒会を中心とした、生徒による自治組織を目指す	B	
		生徒会新聞の隔月発行による生徒会活動の周知徹底と、生徒会研修生・実行委員の積極的育成	A	
		生徒会の収入と支出のバランスを整え、部活動への計画的予算投入と、持続可能な予算計画を立てる	B	
		地域の催し(できな祭・こどものまち等)への参加ボランティア紹介および申請の指導	A	
校外美化清掃(美化委員と連携)および募金活動の計画実行	B			
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 常に菊華高等学校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てる 交通安全指導の充実 正しい倫理観や道徳観を身につけ「社会に役立つ人材」の資質を身につける 	制服の正しい着用・挨拶の励行など基本的生活習慣の確立	A	<p>登下校や部活での移動時等、特に自転車運転ルールを繰り返して伝える必要性を感じる。法令順守は当然ながら、子供や年配者に対する気配りも出来るように指導を続ける。学校生活においても他人への思いやりを持った行動を心掛けるように、教え続ける必要がある。特にSNSの利用については、機会ある毎に何度も教える事を実施したい。</p>
		遅刻指導の実施	A	
		通学路の設定	A	
		登下校指導の徹底	B	
		自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成	C	
健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 日常の健康観察 	保健室の利用状況の把握	B	<p>今年度は、保健室の利用状況の把握が養護でのみに留まっていたので、保健日誌をつけ情報を公開するようになり、前年度よりも保健室利用者は減ったが、より多くの生徒が教室で頑張れるように保健室の在り方を更に見直したい。カウンセリングが受けられることを知らせ、希望者をカウンセリングに繋げることができたが、その後、情報を共有する必要がある。</p>
		カウンセラーの活用	A	
渉外	<ul style="list-style-type: none"> 募集定員の入学者数確保 学校紹介リーフレット及び学校案内パンフレット等、募集アイテムの充実 体験会・説明会の充実 	各学科・コースの入学者数増加および推薦受験者数増加	A	<p>推薦受験者数は、今年度より特別専願入試を実施したことにより多少ではあるが増加した。また、体験会・説明会の行事参加者数では、昨年度実施した見学会をより充実したものであるとして説明会に変更した。その結果、昨年度より参加者数は増加した。しかし、近隣協力校としての瀬戸市・春日井市の受験者数が減少したため、一般入試の入学者数や歩留まりが厳しくなり、募集定員確保も厳しくなる。やはり、入学者数を確保するには、推薦受験者数の増加が必須で、今後は近隣協力校を中心に受験者数につながる、教育内容や学科・コースのPR活動が必要である。</p>
		認知度を高めるための学校紹介リーフレットと学校案内パンフレット等の充実および活用(各学科・コースのPR強化)	A	
		体験会・説明会等の行事への参加者数増加	A	
いじめ防止対策	<ul style="list-style-type: none"> 日常の観察 問題の緊急性に関する対応 アンケート、スクールカウンセラーの活用 	アンテナを高く持ち問題を感じたら、学年主任へ報告。学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	<p>今年度は悪ふざけによる事案やSNS上での誹謗中傷の事案などがあつたので、今後はすべての教職員が日ごろから今以上にアンテナを高く持ち、いじめの防止にあたる必要性を感じる。また、今年度もアンケートやクレバリンの実施によるいじめの実態把握に効果があつた。来年以降もアンケート等の実施で生徒の事態を把握するよう努めたい。</p>
		激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、即いじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A	
		問題の全貌を知るためにアンケートやクレバリン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	B	
事務	<ul style="list-style-type: none"> サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む 事務室と職員室との連携と相互協力 公的補助金の獲得の最大化 予算管理における的確性 出納業務の標準化・効率化 積立金管理についての個別対応と正確性 	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上への貢献内外に対する親切で行き届いた対応	A	<p>・予算管理に基づき、支出の内容を見極め学校運営に支障がないよう事務処理に努めたい。</p>
		確実な情報伝達(ホウ・レン・ソウ)をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A	
		就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成補助金制度に精通し的確な申請にて取りこぼしを防ぐ。	A	
		学園全体の制約の中で、充分に学校経営に於ける予算立案及び運用管理	B	
		校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	A	
		学科別・コース別・個人別と推移する中で、如何に効率化するか	A	

【評価基準】 目標の達成率 A:80%以上 B:60%~79% C:40%~59% D:40%未満